

第1分科会

混職協働最前線 これからの産学連携

概要：

コンソーシアム京都のFDフォーラムがFD・SDフォーラムとして生まれ変わった。そこで、本分科会では教職協働が必須である産学連携について取り上げる。近年、大学等での研究推進においては、第三の教職員とも称されるリサーチアドミニストレーター（URA）の重要性も指摘されており、教職協働より混職協働と認識すべきかもしれない。さて、産学連携は、単に経済社会の発展に寄与するイノベーションの創出や、国際競争力の維持・向上などの社会への貢献のみにとどまらず、産学連携研究に参加する学生の高度専門性の獲得など教育面への貢献も期待され、その意義は多岐にわたる。急速に加速する少子化などを含むこれからの社会情勢を加味したこれからの産学連携のあり方について考える機会にした

<プログラム>

- 10:00 趣旨説明 京都薬科大学・准教授 石原 慶一氏
- 10:10 講演1.「多様化する産学連携 -アライアンス手法を考える-」
学校法人立命館・理事 立命館大学・副学長 野口 義文氏
- 10:40 講演2.「大学に求められる機能強化
～産学連携、研究推進支援機能とその専門人材～」
金沢工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科・教授
リサーチ・アドミニストレーション協議会（RMAN-J）副会長
高橋 真木子氏
- 11:10 講演3「研究成果の社会実装を目指して～産学官のギャップを力に変える～」
京都大学成長戦略本部 統括事業部イノベーション領域・副統括、
京都大学「医学領域」産学連携推進機構・特定教授教授
鈴木 忍氏
- 11:40 休憩
- 11:50 質疑応答

第2分科会

大学のDX——AI時代の組織・システム・教学

概要：

教育力・研究力の向上、経営の効率化や基盤の強化などにおいて大学のコミュニティに関わる多岐の情報の集約・共有・連携が肝要であり、これらを実現するデータプラットフォームの構築と蓄積されたデータの利活用は、大学のDX(デジタル・トランスフォーメーション)を促進する上で不可欠である。また、2022年度末より話題となった生成AIなどを含む有益なデジタル技術の出現と急速な進展とともに「こうしたデジタル技術をどのように組織に取り入れ、活用し、大学のDXを促進していくのか」は、多くの大学で共通した課題となっている。

本分科会では先駆的なDXの取り組みを紹介してもらいながら、参加者を含む各大学間でのDXに対する現状や課題を共有したい。

<プログラム>

- 10:00 趣旨説明
立命館大学 経営学部 教授
横田 明紀 氏
- 10:05 講演1.「龍谷大学におけるDXの現状と課題 - 生成AI時代を見据えて」
龍谷大学 副学長 総合情報化機構 機構長
龍谷大学 先端理工学部 教授
松木平 淳太 氏
- 10:35 講演2.「阪大流DXの進め方 - ないないづくしからの挑戦」
大阪大学 OUDX 推進室 副室長・教授
大阪大学 D3 センター DX 研究部門長
鎗水 徹 氏
- 11:05 講演3.「学校法人立命館のDX推進戦略の実践と課題について」
学校法人立命館 総合企画部 総合企画課 課長
浅田 智史 氏
- 11:35 講演4.「DX実現を目指す組織風土醸成と大学職員の意識変革」
滋賀大学 教育学部教務係 主任
沼田 耕並 氏
- 12:05 休憩
- 12:10 全体討論・質疑応答
- 12:30 終了

第 3 分科会

学校教育における生成 AI 活用の現在と今後の課題

概要：

生成 AI は、教育現場において非常に大きな可能性を秘めている。単に生徒の学習効率を向上させるだけでなく、教師の指導方法を新たに開発する手助けにもなり得る。本分科会では、実際に授業やその他の業務で生成 AI を活用している現場の教師を講師に迎え、具体的な活用事例やその効果、課題等について紹介していただき、参加者間の意見交換を通じて、これから生成 AI をどのように授業に取り入れ、また教育効果を最大化できるのかを共に考える機会としたい。本分科会が、教育の未来を見据えた新たな指導法や教育法を模索する一助となり、参加者一人ひとりが自分の現場に適したアイデアを持ち帰れる場になることを願っている。

<プログラム>

10：00 趣旨説明

京都精華大学 准教授 住田哲郎氏

10：05 講演 1. 「中学校国語科における生成 AI 活用の実際」

お茶の水大学附属中学校 教諭 渡邊光輝氏

10：30 講演 2. 「生成 AI を活用した高校の授業実践」

西武学園文理高等学校 教諭 笠原諭氏

10：55 講演 3. 「なぜ生成 AI は嫌われるのか？」

—学校における生成 AI 教育への実務家からの提言—

日本マンガ学会 会長 すがやみつる氏

11：20 休憩

11：30 登壇者による討論

11：50 質疑応答

12：20 総括

12：30 終了

第4分科会

困難を抱える発達障がい学生への対応

概要：

発達障がいのある学生は間違いなく増えている。この発達障がいという分類の大枠は、ASD（自閉スペクトラム症）、ADHD（注意欠如・多動症）、SLD（限局性学習症）のカテゴリの総称であるが、この分野は、長い間検討されてきた割に医療的にも医学的にも端緒についたばかりである。さらに、近年では発達障がいの概念の拡大とともに医学的視点のウェイトも下がり、生活機能上の支障という条件も変化しつつある。大学保健においても発達障がい者の支援が叫ばれてはいるが、当然基礎的知識無くしては本当の意味の支援とはならない。本分科会では、精神科医でもある龍谷大学の須賀先生を中心に、様々な立場の方々からご意見を伺って、発達障がい学生に対する大学での支援のあり方を皆さんに理解していただける場としたい。

<プログラム>

10：00 挨拶

同志社大学英明医科学部 教授 市川寛

10：05 趣旨説明「発達障がいの学生への支援の現状と今後の可能性」

龍谷大学短期大学部 社会福祉学科 教授 須賀英道

10：10 講演 1. 「当事者の視点から」

NPO法人DDAC（発達障害をもつ大人の会） 代表 広野ゆい

10：30 講演 2. 「親の視点から」

親の会はぐくみ 会員 古川直子

10：50 講演 3 「医療介入の視点から」

滋賀県立精神医療センター 地域生活支援部 社会復帰支援係長 渡部良子
同 地域生活支援部 主幹（兼）医療連携係長 加藤郁子

11：10 講演 4 「医療介入の視点から」

京都教育大学 保健管理センター 教授 上床輝久

11：30 講演 5 「就労支援の視点から」

株式会社エンカレッジ 代表取締役 窪貴志

11：50 講演 6 「発達障がい者の今後の可能性について」

龍谷大学短期大学部 社会福祉学科 教授 須賀英道

12：10 質疑応答

ワークショップ 1

教・職・学で考える大学の学び

概要：FD や SD についての研修やそれに基づく授業、業務の改善が各大学で行われている。しかしながら、これらの取り組みがどれほど学生の活動に効果を与え、大学での学びを促進しているのだろうか。本ワークショップでは、教職員による授業・業務改善や学生支援といった取り組みについて、学生の学びという視点で見つめ直し、その効果と課題について学生、職員、教員で議論する。本ワークショップは前半の事例紹介と後半のグループワークで構成される。前半の事例紹介では、各大学での FD・SD の取り組みや、教学マネジメント、IR、学生支援について 4 名の講師より情報提供いただく。後半のグループワークでは、これら教職員の取り組みに対する学生のフィードバックやコメントをもとに、参加者全員で議論を深めていく。

*本ワークショップでは、教職員だけでなく学生の参加を歓迎する。

<プログラム>

10：00 趣旨説明

京都橘大学 経営学部 専任講師 多田 泰紘 氏

京都外国語大学 共通教育機構 講師 根岸 千悠 氏

10：10 講演 1. 「FD・SD の動向と実際：よりよい学生の学びにつなげるために」

近畿大学 IR・教育支援センター 准教授 竹中 喜一 氏

10：25 講演 2. 「ピアサポート組織を立ち上げるために教職員は役に立つのか：

宇大ラーニングサポーターを事例として学生とともに考える」

宇都宮大学 大学教育推進機構 基盤教育センター 准教授 石井 和也 氏

10：40 講演 3 「Student Success を中心に据えた学生支援とは」

立命館大学 学生部 SSP 学生支援コーディネーター 岸岡 奈津子 氏

10：55 講演 4 「FD・SD の有機的連関を目指して～教職学協働で取り組む教育改善～」

成城大学 教育イノベーションセンター 主任 肥田 奈緒子 氏

11：10 休憩

11：20 グループワーク

ワークショップ 2

今さら聞けない奨学金、今こそ話したい学生支援

概要：

本分科会では、奨学金制度の現状を踏まえ、学生にどのような支援ができるのかをワークショップ形式で議論する。

奨学金受給率が3～5割とされる現在、給付型や授業料減免などの新たな支援制度も加わり、奨学金制度はますます複雑化している。一方で、奨学金は担当部署の職員に丸投げしている大学も多く、学生の受給状況や奨学金に関する学生支援上の課題などは可視化されにくい。

そこで、本分科会では学生と奨学金との関係を①申請時、②受給中、③返済時、の3つに区分し、各区分に詳しい方々に情報提供を頂く。その後、各区分で生じる学生支援上の課題について、参加者同士で知恵を出し合い、これからの学生支援の方法を具体的に検討したい。

奨学金制度に詳しい方からそうでない方まで、さまざまな教職員にご参加頂きたい。

<プログラム>

10:00 趣旨説明 京都文教大学 総合社会学部 助教 中西 勝彦 氏

10:10 講演 1. 申請時「奨学金制度の現状と学生の申請支援（仮）」
札幌大学 学務部学生課 職員 水戸 康徳 氏

10:40 講演 2. 受給中「適格認定の実際（仮）」
立命館大学 学生部 学生オフィス（衣笠） 課長補佐 中山 博文 氏

11:10 講演 3. 返済時「当事者からみた奨学金（仮）」
京都文教大学 卒業生 山本 愛理 氏

11:40 休憩

11:50 ワークショップ「奨学金にまつわる学生支援を考えよう」

ワークショップ 3

大学とダイバーシティ

概要：

京都は以前から留学生の多い地域であったが、最近はさらに留学生数が増加しており、様々な文化的背景をもつ学生との交流が大学教職員に求められている。日本語を母語とする学生だけではなく、多様な言語、宗教、文化をもつ学生と関わり、大学内のダイバーシティを尊重する姿勢をもつことが、今後の大学の発展にとっても必要であろう。多様な人材を育成する大学において、異文化とどのように向き合っていけばよいのか。大学の授業や、日本人学生と留学生との交流イベントで簡単に行うことができる異文化間教育に関するワークショップを紹介するとともに、実際にワークショップを体験して、想像性を働かせながら新しい価値観を創造する楽しさを参加者と共有できればと考えている。

前半では、『異文化接触の心理学－AUC-GS 学習モデルで学ぶ文化の交差と共存－』（田中共子著、2022、ナカニシヤ出版）をベースに、異文化間教育の立場から、留学生とのワークショップの方法を紹介する。留学生を送り出す立場、受け入れる立場に役立つ試みも取り上げていく。

後半では、実際にアート手法を用いた集合的創造のワークショップを行う。参加者が協力しながら遊び心を持って異なる視点を探求し、想像力を刺激し合う。助け合いの環境の中で、新たなアイデアや洞察が生まれるいくつかの活動を体験し、そうした活動を支える場のデザインについて、パフォーマンス心理学の理論を基に対話を通じて深めていく。

これから大学内は留学生だけではなく、多様な特性をもつ学生や多職種の教職員も多くなっていく。このような多様性に今後大学はどう対応していくのか。自分とは異なる他者に対峙したときに、どのような視点や方法が必要なのか。そのヒントを提示するとともに、参加者と一緒に異文化と接する楽しさを共有したい。

<プログラム>

- 14 : 00 趣旨説明 同志社女子大学 教授 塘 利枝子氏
- 14 : 15 講演 1. 「留学交流の現場で使えるワークショップの方法」
岡山大学 社会文化科学学域 教授 田中共子氏
- 15 : 00 休憩
- 15 : 05 講演 2. 「アートと共創でひらくキャンパス多様性」
明治大学 国際日本学部 教授 岸 磨貴子氏
- 16 : 25 質疑応答

ワークショップ 4

大学空白地における域学連携と地域活性化

概要：

いま改めて「地方創生」がさげられる中、大学にはどのような役割が求められているのだろうか。京都府北部地域には大学のない自治体はいくつか存在するが、たとえば京丹後市では「夢まち創り大学事業」として、現地までの学生の送迎や宿泊などの形でフィールドワークの支援を行っている。2015年の事業開始以来、18大学1団体、のべ8千人以上が参加しており、商品開発や地元の祭の運営・参加、農業など活動内容も多岐にわたっている。

この分科会では、京都府北部地域等の「大学空白地」ともいえる大学のない／少ない地域において、大学がいかなる役割を果たすことができるのか、特に域学連携と地域活性化の観点から、京丹後市の「夢まち創り大学事業」に関わる方々と一緒に考えていく。

<プログラム>

- 14:00 趣旨説明 大谷大学社会学部 講師 野村 実
- 14:10 講演 1. 「京丹後市夢まち創り大学とは」
京丹後市市長公室政策企画課 主事 青木 滉人
- 14:25 講演 2. 「地域と大学の間立つジレンマ」
有限責任事業組合まちの人事企画室 CMO 井上 健吾
- 14:40 講演 3. 「『大学のないまち』と大学との連携の実際」
福知山公立大学地域経営学部 准教授 杉岡 秀紀
- 15:00 休憩
- 15:15 グループワーク①「地域連携の理想」
- 15:45 グループワーク②「地域連携の苦悩」
- 16:25 総括